



とらいあんぐる



2022 年 9 月

一音会ミュージックスクール発行

「家業」

世の中、職業というものは、星の数ほどあるものです。

けっこう長く生きている私でも、実はよく知らない職業がたくさんあります。その多くは、生涯、知ることのない仕事なのでしょう。

その星の数ほどある職業の中から、「自分の仕事」となるものを見つけるのは、簡単なことではありません。

世の中の多くのケースを見てみると、自分がたまたまよく知っている職業の中から選んでいる人がとても多い

ようです。

子どもに「なりたい職業」をいわせると、幼稚園や学校の先生、お医者さん、スポーツ選手、ユーチューバーなどが挙げられます。

いずれも実生活で接点があったり、テレビやネットでよく見る、子どもがよく知っている職業です。

考えてみれば、当然です。

人間、よく知らないことを選ぶことはできません。どうしたって、知っていることの中から選ぶことになってしまいます。

それで良いと思うのです。

星の数ほどある職業を知りつくすことなんて絶対無理ですから、自分の知る中から選んだら良いのです。

なーんだ、簡単・・・と思いきや、いや、待てよ？と思います。

知る中から職業を選ぶのも、よく考えると、そう簡単ではないはず。それは、職業を選ぶのが、人生の比較的はやい段階であるから。

年齢を重ねて、社会経験を積んで、いろいろな職業の人と接してからならまだしも、まだ社会に出てもいないうちに、職業を決めなくてはいけない、というのは、けっこうな難題ではないでしょうか。



世の中の人、いったいどうやって「自分の仕事」を決めているのだろうか？！

若いうちによく知る職業は、なんといっても、身近な人がついている職業です。

仕事をイメージする時、なかば無意識に、身近な人を「モデル」とします。

一番「モデル」になりやすいのは、やはり家族でしょう。

親の職業をそのまま継ぐのがあたりまえだった江戸時代は、それはそれでよくできたシステムだったのかもしれませんが。

今の時代も、自分のお父さんやお母さんと同じ職業についている人は、本当に多いものです。

親御さんでなくとも、親戚の中に同じ職業についている人がいる、というのは、多いケースです。一族の中に何人も学校の先生がいたり、何人も薬剤師さんがいたり、調理師さんがいたり、あるいは音楽家がいたり、というケース

はめずらしくありません。身近に「モデル」がいることの効果なのだと思います。たくさんの生徒さんやそのご家族と接してきた経験からも、強くそう思います。

私自身も、まさにそうです。

私の家業は、音楽教室です。子どもの頃から見てきた、一番よく知る仕事です。

あまりにもよく知る仕事であったため、そしてあまりにも家の中にどんどん入り込んでくる仕事であったため、私にとって一音会は「家事」に近く、私は「家事」とは別に、「自分の仕事」として大学の教員を選んでいました。



長年、「家事」と「自分の仕事」を両立してきた私は、約10年前、母が亡くなった時、母が担ってきた家事を引き受けて、家事専業になりました。

大学教員は、唯一、自分で選んだように見える「仕事」ですが、知識がないところから、自分で調べて選び取ったかという、まったくそんなことはなく、ちゃんと親戚の中に「モデル」がいました。

当時、母と仲の良い母の姉が大学の教員をしていたのです。マネをした自覚はないのですが、気がつく、そうなっています。不思議です。

この伯母と私は、誕生日が同じで、出身高校が同じで、最終学歴の大学院も同じで、専門も同じ心理学です。ここまでくると、偶然ではないのでしょうか。やっぱり、私にとって「モデル」だったのです。

つい最近になって、私は唐突に、もう1つ、「家業」と呼べる仕事を思い出しました。

ずっと忘れていました。というより、あまりにも幼い時の記憶なので、最初からちゃんとした記憶ではないのです。

でも今、確かな記憶としてあるのは、私が幼い頃、私のおもちゃの中に、何枚も金メダルがあったことです。大きさもデザインも材質もバラバラです。

それはメダルの試作品でした。銀色のメダルもありましたし、しぶい色のものもありました。でも、一番カッコいいのは、光を受けてピカッと光る金メダルです。

どうして、幼い私がそんなものを持っていたのか……。記憶をたぐりよせると、さらに古い記憶がうかびます。



私が幼い頃、私の住む家の一角は、記念品を作る工場になっていました。当時、それがおじいちゃんとおばあちゃん（母の両親）の仕事だったのです。

試作品や失敗した品が、工場から出ると、私はすぐにもらいうけて、宝物にしていました。

メダル以外にも、文鎮、バッジ、さかすき、ネクタイピン、トロフィーなどがありました。箱の中に大切におさめて、1つずつ取り出し、キラキラするものをながめて、満足しました。

ずっと忘れていましたが、私にとって、メダルが身近なものであった時代が確かにあったのでした。

私は今から6年前に、唐突に思いついて、発表会の記念品として金メダルを配ることにしました。その時、その「家業」のことは完全に忘れていましたが、そう思いついたということは、記憶のカケラがあったのでしょう。

5年間、金メダルを配り、私は今年、また唐突に思いつきます。

今年は、デザインからすべてオリジナルで作りたいと急に思い立ったのです。過去5年のメダルのデザインは、既成のデザインから選んだものでした。

夏の発表会に向け、デザインをし、素材を決め、大きさを決め、鋳型から作ってもらいました。フルオーダーです。

その工程は、私の古い記憶を呼び覚ますものでした。

楽しく、なつかしく、心なぐさめられる作業でした。気づけば私は、昔々、祖父母がやっていたことをなぞっているのです。

思えば、これこそが、私の人生最初の「家業」と呼べるものなのでしょう。

祖父母という「モデル」がいなかったら、この「家業」がなかったら、私は金メダルを製作することを思いつかなかったにちがいません。あらためて「家業」の威力を知ります。

この夏、メダルの製作にかかわり、私は本当に楽しい時間を過ごしました。

若く元気だった頃の祖父や祖母が働

く姿を、たくさん思い出すことができました。

おうちの方は、お子さんにとって、「モデル」です。おうちの方が懸命にお仕事をする姿を、お子さんは見ています。

どうか、お仕事の楽しさ、たいへんさを、あますところなく子どもに伝えてください。それは、その子の人生に強く影響するでしょう。

子どもの人生の深いところに種をまくようなものなのかもしれません。

祖父母が廃業して50年近く経った今、芽を出すなんて、私が一番、びっくりしています。

(江口 彩子)



◆ピアノ発表会では、ご協力をありがとうございました

8月5日（金）、6日（土）、7日（日）、8日（月）の4日間にわたっておこなわれた「ピアノ発表会」が、無事、終わりました。

今年の夏は、記録的な暑さであったため、会場の行き帰りの生徒さんやご家族の皆さまの身を案じましたが、不思議と発表会期間中は比較的過ごしやすく、月並みな言い方になりますが、天気が味方をしてくれたと思います。

コロナとともに過ごす夏も3回目となる今年、本当に多くの生徒さんが、発表会にご参加くださいました。心から感謝しています。

いくつかの部で、ご参加くださった生徒さんが私どもの予想を大きく上回り、そのために開演時間が予定より遅くなってしまいました。お待たせをしてしまいましたことを、深くお詫びいたします。来年は、この点を主に改善していきたいと思っております。申し訳ありませんでした。

生徒さんは皆さん、立派な演奏でした。曲という“種”をもらい、忙しい中、がんばって練習して、育ててくださいました。そして舞台上、大輪の花を見せてくださいましたね。このことは、誇りに思ってください。

大きな発表を1つ終えるごとに、お子さまは急成長します。次の目標は「ピアノ・トライ」です。この調子で、どんどんお力を高めてください。

私どもも、気持ちを新たに、これからも全力でご指導にあたりたいと思っています。



◆「音楽の集い」を有観客で開催します

夏のピアノ発表会の後に来るイベントは、「音楽の集い」です。

一音会では、文化の日を毎年、“音楽を愛する人が集う日”と決めて、おとなの方の発表会「音楽の集い」を開催しています。

おとなの方限定ですので、ピアノ発表会とは別の趣があります。もちろん、ピアノ発表会と「音楽の集い」、両方にご出演いただくこともできます。

コロナ元年の一昨年は、「音楽の集い」を中止しました。その後、「ぜひ音楽の集いを！」という、うれしいご要望を受けて、昨年は開催にふみきました。ただし、感染拡大をおそれ、無観客でした。

その後、「少なくとも良いので、お客さんの前で発表したい！」という、またもうれしいご要望をいただき、今年是有観客で開催します。

この3年間、ピアノ発表会を有観客で無事に開催してきた自負から、細心の注意を払って感染防止をおこなえば安全に開催できると判断いたしました。また、皆さまが感染防止に惜しみないご協力をくださることが分かったからです。

一音会にかかわる、おとなの方全員に参加資格があります。基本は、一音会でレッスンを受けていらっしゃるおとなの方の発表会なのですが、レッスンを受けていない方、例えば子どもの生徒さんのお父さまやお母さまにも、ご参加資格があります。

「垣根をとりはらって、音楽を愛するおとな同士、楽しみましょう」という趣旨です。ピアノ以外の楽器でご出演いただくこともできます。伴奏が必要であれば、スタッフが伴奏いたしますので、ご相談ください。

日程：2022年11月3日（木・祝）

12：30開場 13：00開演（予定）

場所：「ひびきホール」

今年久しぶりの有観客開催です。でも、かつての有観客開催に戻すつもりはありません。あくまでも、コロナ仕様の有観客です。密にならないよう、部立てをよく考え、当日はまた、皆さまにこまごまとしたお願いごとをすることになると思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

客席に長居することにより、ご不安をお感じの方もいらっしゃるかもしれません。今年は、全プログラムを撮影させていただき、後日、YouTube で配信いたします。閲覧制限をかけ、事前にご案内した人以外の人は閲覧できない形にしますので、部外者に映像を見られる心配は不要です。

当日、客席でご覧にならなくても、動画でご覧いただくことができますので、ご自身の出演が終わったら、お帰りいただくこともできます。また、遠方の方においでいただかなくとも、URL をお知らせすることで、ご覧いただけますので、ご親戚の方やお友だちに演奏を観てもらいたい機会にもなると思います。

客席を密にしない工夫を重ね、皆さまに安心してご参加いただける会といたします。

「音楽の集い」のご案内は、「ショパンはうす」受付に置いてあります。ご出演をご検討くださっている方は、ぜひご請求ください。

ひびきホール

★西武池袋線 東長崎駅

南口より 徒歩7分

★ビルの1階はスーパー

「まいばすけっと」です



◆「ピアノ・トライ」をハイブリッドで開催します

ピアノ発表会が終われば、次の目標は「ピアノ・トライ」です。すでに「ピアノ・トライ」の曲を決めて、練習に入ってきてくださっている生徒さんも多いことでしょう。

まず、「ピアノ・トライ」は、絶対に実施する、ということをお約束します。安心して、練習に入ってください。

昨年度は、対面式と動画式、2つの発表のやり方からお選びいただく形にしました。この「ハイブリッド」は、すべての方のご希望をかなえる意味で、良いやり方であったと思っています。

今年も、コロナの動向は読み切れません。今年も、対面式と動画式、2つのやり方を並行するハイブリッドでおこなう予定です。

ハイブリッドは、昨年度がはじめての試みでした。正直なところ、2つのやり方があることの煩雑さは否めず、私どもも手探りでした。今年度は昨年度の反省を生かし、煩雑さを極力除き、実施したいと思っています。詳細は、来月発行の「とらいあぐる」でお知らせいたします。

◆スタッフのお知らせ

すでに関係する生徒さんにご家族の皆さまにはお知らせしていますが、須田果穂先生が8月から休職しています。実は、発表会を目前とする時期に、交通事故にあいました。発表会の講師演奏が急に中止になってしまったのも、その理由です。

私どもは大きなショックを受け、あまりにも急なことである上に、須田先生へのケガの様子が分からなかったこと、発表会直前という、この上なく大事な時期であったこと、生徒さんにショックを与えてしまうのではという心配などが交錯し、混乱して、お知らせが遅くなってしまいました。

幸い、手術は成功し、リハビリも順調だそうです。ただ、残念ながら、復職までに

少し時間が必要です。かならず元気で帰ってきてくれます。待ちたいと思います。

須田先生の生徒さんには、急に代講の先生になったり、年度の途中での先生交代をお願いしたり、ご迷惑の連続となってしまいました。本当に申し訳ありませんでした。

年度の途中ですが、新しい先生が二人、加わってくれています。福田木綿子（ふくだゆうこ）先生と吉田梨乃（よしだりの）先生です。二人は、一音会での指導は初めてですが、すでに指導経験がある優秀な先生です。そして優しい先生です。

よろしく願いいたします。

◆欠席連絡メールをご活用ください

欠席のご連絡が夜や早朝の場合、お電話でお受けすることができません。

ぜひメールでご連絡をください。一音会が使っているメールアドレスは複数ありますが、欠席連絡用アドレスは下記のもので、別アドレスにメールを頂戴しますと、確認が遅くなってしまうことがありますので、かならず下記アドレスあてにお願いいたします。

oyasumi_ichionkai@yahoo.co.jp

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：ichionkai.piano@gmail.com

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。